

# 議 事 録

会 議 名	第41回 宇都宮市環境審議会 議事録	
開 催 日 時	令和4年1月31日（月） ※新型コロナウイルス感染症の感染予防のため書類開催	
出席者	環境審議会 委 員	宇梶哲委員，金沢力委員，久保井永三委員，柴田賢司委員， 青木章彦委員（会長），横尾昇剛委員，桂木奈巳委員，加藤彰委員， 新井有明委員，近澤幸嗣郎委員，佐藤俊伸委員，篠崎務委員， 大須賀勇貴委員，赤石澤亮委員（副会長），遠藤廣委員，木村由美子委員， 古澤勝司委員，横川剛委員，山内祥輝委員，岡元輝委員
公開・非公開	公開	
会議概要	<p>1 議事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宇都宮市環境審議会 会長及び副会長の選任について</li> <li>・ 「宇都宮市カーボンニュートラルロードマップ」について</li> </ul> <p>⇒ 議事について了承</p>	

発言要旨 ※意見書にて頂いた御意見を掲載しております。

【「宇都宮市カーボンニュートラルロードマップ」に係る意見について】

(御意見①) 委員	本市においては、自動車への依存等により、運輸部門からのCO <sub>2</sub> 排出が約26%占めており、全国平均に比べて高いことから、LRTを中心とした公共交通の充実を図り利用促進に努める必要がある。また、合わせて電気自動車の普及についても積極的に取り組むべきである。
事務局	運輸部門からのCO <sub>2</sub> 排出削減に向けて、引き続き、ネットワーク型コンパクトシティ（NCC）の構築を推進し、LRT・路線バス等の公共交通の充実と利用を促進するとともに、電気自動車の普及などに取り組んでいく。
(御意見②) 委員	植林や森林管理等による「吸収量」を増やしていくとともに、国が研究しているCO <sub>2</sub> の回収・貯留についても国の動向を注視しつつ、先駆的な取組が必要である。
事務局	カーボンニュートラルの実現に向けて、森林管理や都市緑化等の吸収源対策を推進するとともに、国におけるCO <sub>2</sub> の回収・貯留などの脱炭素技術の開発動向等を踏まえながら、本市での活用について検討していく。
(御意見③) 委員	カーボンニュートラルの実現に向けて、下記が必要であると考えます。 ①植林や森林管理などによる吸収量の増加へ向けた取り組みの重要性の発信 ②自然界との共生の重要性の発信 ③家庭系ごみの排出量の減量化への取り組みの重要性の発信 ④自然環境の豊かさを維持への取り組みの重要性の発信 ⑤工場・事業場における排出量の基準についての法令遵守の理解度に向けた重要性の発信 ⑥人づくりへ向けた重要性の発信
事務局	「植林や森林管理などによる吸収量」や「家庭系ごみの排出量の減量化」などについては、カーボンニュートラルに必要な不可欠な取組であることから、その重要性などについて、様々な媒体を活用しながら、効果的な発信に取り組んでいく。

(御意見④) 委員	カーボンニュートラルと生物多様性をセットで考える必要があり、ロードマップに書き込んでほしい。また、気候変動については、緩和策と適応策をセットで考える必要があり、ロードマップに書き込んでほしい。
事務局	ロードマップについては、カーボンニュートラルと併せて考える必要がある「生物多様性」や「緩和策と適応策」などについても盛り込んでいく。
(御意見⑤) 委員	宇都宮市のCO <sub>2</sub> 排出量の実態値についての把握において、産業、民生（家庭）、民生（業務）などのCO <sub>2</sub> 排出内訳についての実態把握により、取り組み対象を特定し、効果的もしくは重点的に取り組むべき対策を検討することが可能になるかと考える。
事務局	CO <sub>2</sub> 排出量の実態について統計データ等により整理・分析を行い、CO <sub>2</sub> 排出削減に資する効果的で重点的に取り組む対策について検討していく。
(御意見⑥) 委員	目指すまちの姿について ①カーボンニュートラル化が、都市の魅力や活性化などにも資するような見せ方ができ、多くの人々に共感を得るようなメッセージが盛り込められるとよいのではないかと考える。
事務局	②ZEHやZEBについて、一般的なものではなく、宇都宮の気候風土やライフスタイルを生かしたZEHの在り方を目指すことを検討しても良いのではないかと考える。 ③再生可能エネルギーや未利用エネルギーが主要な拠点、見近なところで分散配置されているようなイメージが必要かと思う。 ④静かで、空気が清浄、眺めが良いなど地方都市の強みとして屋外での過ごし方、アウトドアリビングやアウトドアオフィスなど宇都宮ならではの新しいライフスタイルを模索検討しても良いのではないかと考える。 カーボンニュートラルの推進に当たっては、地域の特性・資源などを活かしながら、取り組んでいく必要があることから、引き続き、本市の特性等を活かした取組について検討するとともに、目指すまちの姿について、多くの人々に共感を得られるような姿を提示できるよう、検討していく。
(御意見⑦) 委員	カーボンニュートラルの課題と方向性について ①省エネの徹底について、各分野、各対象を見出しに出し、どのような施策を検討し、そして、それぞれ、どの程度の省エネ削減率を各年代で目指すのか表現すると、よりイメージしやすいかと思う。
事務局	②自動車や家電・設備等の電化は、家電は既に電化だと思う。また単純な電化では、電力需要の逼迫の問題があるため、再生可能エネルギー利用が前提とすべきと考える。 ③CO <sub>2</sub> の回収・貯留は森林資源の活用による炭素固定、炭素吸収が含まれるのか。植林による炭素吸収や木材資源の循環として木造・木質建築の促進なども、景観形成とともに平地が広がる本市の新たな取り組みとして良いのでは。 ④住宅・建築の高断熱化や未利用エネルギーとしての太陽熱、排熱など熱エネルギー利用も、本市の冬季の熱需要特性から期待できるものと考えられるので、取り上げる優先度や効果が高いかと思う。 ①ロードマップでは、2030年度及び2050年度における削減目標と、市民・事業者・行政における省エネなどの施策事業を示していく。 ②ご意見を踏まえ、内容を修正する。 ③森林吸収について追記するとともに、木材利用の推進等の取組について検討していく。 ④住宅・建築物からのCO <sub>2</sub> 排出削減に向けて、住宅・建築の高断熱化やエネルギーの効率的な利用などの取組について検討していく。
(御意見⑧) 委員	「5. 目指すまちの姿」において、図中の「温室効果ガスを排出しない水素バスや燃料電池自動車が増えている」に電気自動車を追加してはどうか。
事務局	目指すまちの姿について、水素バスや燃料電池自動車だけではなく、電気自動車を含めたCO <sub>2</sub> を排出しない自動車が走行している姿を目指していることから、電気自動車を追記していく。

(御意見⑨)

委員

ロードマップ案については、2050年にCO<sub>2</sub>排出量の実質ゼロを目指すということで、意欲的な取組であると思う。問題は、いかにこれを実践・実現していくかであり、官民が一体となり、行政、業界、家庭、県民一人ひとりがオール宇都宮で取り組んでいく必要がある。そのためには、地球温暖化問題が喫緊の課題であるという認識を持ってもらうことが重要であり、また、エネルギーの大切さ・ロードマップの趣旨や意義を、家庭・企業等に広くPRしていく必要があると考える。

なお、PRに際しては以下の点に注意が必要である。

①ロードマップの内容や自分が何をすべきかが一目でわかるようなリーフレット等の作成

②ロードマップは、全国どこでも似たようなものになりがちなので、宇都宮市の特徴をわかりやすくする。

事務局

カーボンニュートラルを実現するためには、一人ひとりが地球温暖化に対する意識変革と危機意識を持ち、地域一丸となって、脱炭素化に向けた行動を実践していくことが重要であると考えている。このため、地球温暖化による影響やカーボンニュートラルの必要性、市民・事業者・行政における具体的な取組について、リーフレットなどを作成し、分かりやすく伝えるとともに、本市ならではの特徴のあるロードマップとなるよう、検討を進めていく。

(御意見⑩)

委員

本市におけるカーボンニュートラルを実現するためには、市民・事業者・行政が一体となって取り組むことが必要であり、そのためには、まず、けん引役として行政(宇都宮市)が取組を率先垂範する必要がある。かつて、宇都宮市は「環境管理」という考え方をいち早く取り入れ、市民・事業者の皆様に理解していただき、それを広げていくために、他の自治体に先駆けて「ISO14001」の認証を取得し範を示し推進した。このように、ロードマップ策定にあたっては、市が率先するべき取組を示すこと、明確な(実現可能な)目標を設定すること等、「見える化」を図りながら、市民・事業者とともに取組を推進していくことが重要である。

事務局

引き続き、市民・事業者の率先垂範として、市役所の脱炭素化をより一層推進するための施策事業や削減目標について検討していく。

(御意見⑪)

委員

宇都宮市は「もったいない運動」をキーワードに環境活動を進めてきた。市独自の「もったいない運動」を活かしながら、SDGsや県の「クールチョイス」等、国や県と連携しながら、市オリジナルの取り組みを進めていってほしい。

事務局

「ひと」「もの」「まち」を大切にする本市独自の「もったいない運動」は、カーボンニュートラル推進の基本となるものであり、国や県におけるの取組と連携を図りながら、効果的な推進に取り組んでいく。

(御意見⑫)

委員

部屋のインテリアに緑を取り入れ、ものやごみが落ちていたら確実に目立つような部屋のつくりにより、身近な場所で「環境」について触れていることで、成長したときに、社会での環境活動につながる。小・中・高・大の若い世代に対して(環境に配慮した)モデルルームを見せて、部屋の片づけの手伝いをする。また、それをSNSで投稿する。

事務局

次世代を担う若い人々をはじめ、すべての市民が環境問題を身近なものとして捉え、環境配慮行動を積極的・主体的に実践していただけるよう、SNS等の様々な媒体を活用した効果的な方策について検討していく。